

平成30年度第2回境港市総合教育会議  
会議録

平成30年11月26日





機会ができればと思います。

中村市長

シンガポールはアジアの金融センターですから。急激に発展して、そういったところをいろいろ触れるだけでも価値があると思います。課長が言うように、もっと現地の人と身近に接するような仕組みができると、なお良いと思います。いずれにしても、継続して実施したいと思います。そのほかございますか。

酒井委員

小中学校への事業につきましては、毎年ご配慮いただきありがとうございます。来年度の新規要求になっているICT支援員の配置なんですけど、パソコンが堪能な教員ばかりではないと思いますので、授業や校務の支援員として、専門家に入っていくということは、子どもたちの授業の充実とか、今課題となっている教員の負担軽減につながるのではないかと思いますので、ぜひ、ICT支援員の配置をお願いしたいと思います。

中村市長

この850万円は人件費ですか。

木村課長

委託料で業者の専門の方が各学校を月2回訪問します。現在は小学校のみですが、来年度は中学校も訪問するようにしています。

中村市長

ALTについては、先般、市長会の要望を県知事に持って行ったときに、境港市からALTについての要望を出しました。やはり、国のJETプログラム（語学指導を行う外国青年招致事業）は非常に質が悪いと思っている。小学校は英語が教科化になるのに、国際交流の観点の色彩が強いのはいけないと伝えました。知事もわかっていると言っていました。民間から優秀な人を派遣してもらおうと助成がなく、すべて市の負担でやらなければいけません。教科化になるのだから、それだけ力を入れてやらなければいけないと言ったところ、知事も認識はしていると言っていました。そのほかありませんか。

中田委員

学校給食センターの民間委託がありますが、PTA要望の回答書の中で給食の配膳業務がなんとかならないかという要望の回答で地域ボランティアの活用をお願いしたいというような内容だったんですけど、地域ボランティアというのも不確定な部分があります。最初から予算化して、事業化したほうが学校の負担軽減に

なると思います。そういったところから変えることもできるのではないのでしょうか。

木村課長

コミュニティ・スクールの導入を見据えて、地域の方のお手伝いが可能であればボランティアの活用を考えてもらいたいということでの回答でした。

中村市長

学校主事に給食の配膳をしてもらうのが大変ということでしたよね。その配膳業務を地域ボランティアでということですね。

松本教育長

配膳という業務については、学校主事にお願いして、これまで学校主事がしていた環境整備を地域の方に支援をしてもらえるのではないかという観点で回答しました。

中村市長

学校主事が環境整備をしているが給食の配膳に手をとられるとそっちの仕事がおろそかになってしまうと言われていています。いろいろとお互いに知恵を出して、あまり費用が掛からないようなことを考えていかなければならないと思っています。

酒井委員

それに関連して、回答書に今年度、学校主事補助が一中校区と二中校区に配置されたと書いてありましたが、配置してもなかなか軽減が図れなかったということでしょうか。中学校区で配置されたということは、その学校だけでなく3校、4校を回るということなのでなかなかうまくいかないということでしょうか。

影本事務局長

これはいわゆる障がい者雇用として教育委員会部局で2名雇用した者でして、どういった業務ができるかということで学校主事の環境整備とか給食業務の手伝いとかをお願いしようという形で、校区で1週間ごとに回ってもらったりしながら仕事をしてもらいました。なにぶんうまくいかないことがあったりして、主事や学校の教員が目をおかないといけないなど、完全に仕事を任せるといような業務が難しいという指摘があつて、今後、教育委員会事務局でも、学校に配置するのか、教育委員会部局のさまざま出先機関があるのでそういったところに配置するのかを含めての検討をしています。障がい者雇用については、学校側にも共生の社会ですので、理解を求めていかなければいけません。いい方法を学校とも協議していきます。

酒井委員

わかりました。

中村市長

そのほかありませんか。

中田委員

熱中症対策ということで、大型扇風機を整備するという話をうかがいましたが、ハード面だけでなくソフト面も必要だと思います。熱中症にどうしたらなるか、熱中症になったらどうしたらいいか、といったソフト面の指導・教育を必要であれば、外部講師をお願いしながら実施したほうがよいと思います。すぐ動けるようになるには毎日の刷り込みが必要だと思います。今後そういった事業の予算計上をハード面と合わせて考えていますか。

木村課長

大型扇風機を学校の希望を聞きながら体育館に配置していこうと思います。熱中症対策の暑さ指数を測る機器で指数を確認しながら、危険と思われる日には体育館での授業は中止ということをしてきています。児童生徒に対して、熱中症になったときの対応などの健康教育を養護教諭や市の保健師で機会を設けられたらと思います。そういった事業には、費用はかからないと思います。

中村市長

学校の教員の皆さんに熱中症への対処の研修とかを養護教諭だけでなく、対応してもらわないといけません。同様に市民体育館とかを委託している団体にも熱中症に対処する方法の研修をするようにしてください。

影本事務局長

平成28年にWBGTの熱中症指数が測れる機器を各校に設置しました。学校には熱中症対応マニュアルを作っています。暑くなる時期には再度確認をしてもらわなければなりません。救命救急講習を各学校で実施していますので、それを体験していない先生は参加してもらいます。そこで必ず熱中症のことも、消防署が指導しますので、教職員は対応できるようにしています。

中村市長

熱中症になって大事に至ったら大変なことですから。

松本教育長

特に中田委員が言われたように、必ずしも教員の目が届く範囲で起こるわけではないので、グラウンドや通学路で熱中症になってしまう場合もあるので、その時に、子ども自らがどういう動き

をすればいいのかという子どもの教育が重要ではないかという指摘であって、そのあたりは学校の方にもきちんと伝えて、そういった力をつける、自分で自分の身を守るということをやっていかなければならない。

中村市長

そのほかありませんか。

徳永委員

ここ何年かスポーツ推進委員をさせてもらっていますが、以前はスポーツは自分で競技するのがスポーツだと思っていましたが、その役をやってみて、スポーツは競技する人と大会行事を運営するところと応援してくださる方がかかわることがスポーツなんだと思うようになりました。それを、みんなが気持ちよくいろんな行事に参加したり、かかわったりしていくことがこれからとっても大事だと思います。人の一生を長い目で見ると、小さいお子さんから高齢者まで、元気な人から体が不自由な人までがいろんな形で参加できるようにならないといけないと思って、その働きかけが私の推進委員としての仕事だと思っています。つきましては、市民温水プールの改修事業とか竜ヶ山周辺の運動施設は参加する人が気持ちよくできるように最低限の整備はやらないといけないと思います。こういった体育施設の整備はないがしろになっているようですが、こういった施設は本当は大事で、もっと予算をつけて整備をしていってもいいのではないかと思います。ぜひご検討ください。

中村市長

たしかに体育施設の整備は遅れている感は否めない。特に竜ヶ山球場はいろいろなところが老朽化していて直さないといけません。私が野球の経験者なのでそれを優先して予算をつけるのはいかなものかと思うところもありまして、後回しになっているところもあります。今はそれでも、ずいぶん改修が進んでいます。陸上競技場についても同様だと思います。財源を確保しながら体育施設の整備にも力を入れていかなければいけないと思います。竜ヶ山球場のバックネット修繕は2千万円かかりますか。

黒崎課長

見積もりを依頼したところ、2千万円ということでした。

中村市長

スポーツ施設や文化施設などすべての施設が老朽化して、道路や側溝や市営住宅などもみんな老朽化しています。すべて建て替

えや大規模改修をしていく時期が来ていて財源の捻出に頭を痛めているところです。その中で、優先順位をつけて年次的に整備していくしかない状況です。指示したように、施設整備については中長期的な計画を立てて、予算の手当てができるようにしていきます。そのほかありませんか。

十河委員

ここ何年か教育懇談会に出席しまして、毎年、要望として上がってくる人が多い事項として、学校のトイレのにおいの対策についてというのが各小学校であると思います。毎年上がってくるということは改善されていないというふうに思いますが、今年の渡小学校の要望事項を見ると、不快な環境での学習を強いられているとあり、悪臭が教室の中に流れ込んできて、学習の妨げになっているというようなことも意見として上がってきていますので、市長が言われたように、優先順位ということもありますが、毎年上がってきていることですので、改修の機会にでも根本的な解決をしていただければと思います。

中村市長

義務教育施設のトイレの改修の経緯と考え方はどうなっていますか。

木村課長

ご指摘のあった、悪臭ということに関しては換気扇や排気口の改修などで調整ができます。私も各小中学校を回って見ていますが便器につまりがあったりと細かいことがたくさんあります。大規模改修時にトイレも併せて改修をしたり、急を要する場合は現行予算の中でできるだけ対応するようにしています。各校の状況次第で対応したいと思います。ただ、どうしても小中学校で建設年度が違って、整備年度も改修年度も違ってきます。機器によっても長期間使用できるものもあったり、耐用年数が短いものもあったりということもあり、状況を整理して対応していきたいと思っています。渡小学校については、換気扇の改修を予定しています。

十河委員

ありがとうございます。

中村市長

そのほかありませんか。（意見なし）

では続きまして、「全国学力学習状況調査」について事務局から分析結果について説明してください。

※高濱課長補佐が資料に基づき説明

中村市長 全国学力学習状況調査の分析結果の説明がありましたが、委員の皆さんからご意見ご質問等ございませんか。

小学校は項目がたくさんある中で「B」が3つしかないが、中学校では挽回しているんですね。

影本事務局長 小学校の算数が鳥取県全体で芳しくない状況でして、県の教育委員会でもプロジェクト会議といった外部の意見を取り入れる組織を作りまして、県全体の取り組みとして算数をがんばらないといけないという話になっています。境港市も苦戦してしまっていて、「C」の3ポイント以内の差であればそれほど全国とは変わらないかと思いますが、これを超えると少し力不足かと思うところでありまして、西部教育局と西部地区で单元ごとに小学生でふりかえりのテストを教育委員会事務局の指導主事で作って、学校に配布して、それをどれくらいできたかというのをフィードバックしたりするような県とタイアップした授業改革を進めています。その結果を見ながら授業を通して力がついているのか、学校と課題を共有しながらやっているところです。

中村市長 小学校で全国平均より低くて、中学校で全国平均と肩を並べているのは、今の中学生たちが小学生のころはどうでしたか。

高濱課長補佐 学校によりますが、中学校になってから改善されている部分が多いと思います。中学校では教科担任制になりますのでそういった部分で成果が出ているのかと思います。中学校でも「活用する力」といった部分が中学校でも課題になっているのが小学校と共通している部分ですので、知識ばかりでなく、それをどう活用していくかというところが課題です。先ほど事務局長が説明しましたが、单元別テストも小学校でも活用する、覚えて出すだけでなくどうやって使っていくかという問題が中心になっていますので、今後子どもたちが必要な力ですのでつけていかないといけないと思います。

影本事務局長 比較的中学校で、力を伸ばしている傾向はあります。

中村市長 ということは、小学校で全国レベルのところまで上がると、中

学校ではもっと上がるのではないですかね。

松本教育長

市内の学校の授業を見て感じるのは、小学校の方は非常に丁寧に算数の授業をしているんですが、その分、子どもたちが問題を解く時間がものすごく少ない。そのあたりは文部科学省からも指摘があって、境港市に限ったわけではありませんが、鳥取県全体の授業がくどい、教員がしゃべりすぎて子どもたちがあまり問題を解いていない。結局、わかる授業を大切にすることで、教員は自分の言葉で理解させようという風になっている傾向があります。子どもたちは自分で解かないと、本当の理解はないので、そのあたりを境港市は意識して授業改革をしないといけません。

影本事務局長

学校の組織力向上のための予算を各校20万円つけたので、各校ともこの秋に、積極的に校内研究を行い、外部の大学の先生を繰り返し招いて、改善を進めている学校があります。それから新潟とか先進地の学校に教員を派遣して、よい取り組みをフィードバックするようなかたちで活用されています。学校が主体的に取り組めるような環境ができてきました。これからどんどん教員の意識が高まっていくのではないかと、最近学校を訪問して期待しています。先生方が真剣に取り組んでいます。

酒井委員

特に小学校で知識が低いというところがとても心配でして、今までにみたことのないように「D」が並んでいます。もう少し前は、よかったと思います。小学校の基礎がきちんとできていないと中学校での学習での大きな支障をきたすので、小学校はもっとがんばらないといけないなと思います。先ほどの授業改善はもちろんです。数年前から境港市の子どもたちの問題点が改善のポイントに記載されていますが、「家庭学習」と「メディアとのつきあい方」がずっと言われ続けていますが、なかなか解決できないのはなぜなのかということをもっとしっかり考えていかないと、毎年毎年、同じような結果になってしまうというのがさみしいなと思っています。この調査の結果ですが、ホームページに出していただいて誰にでも見てもらえるようになっていますが、この考察結果を該当学年だけではなくて、低学年から皆さんにわかってもらって、全学年でこの問題を共有すべきではないかと思っています。6年生になってから家庭に協力してくださいとか、メディアの時間をもっと短くしてくださいといっても遅いので、低学年から学

校と家庭の協力についてもきちんとやっていかないといけないと思います。来年を期待したいと思います。

高濱課長補佐

知識を問う問題となっていますが、実際に問題を見ると穴埋め問題といったイメージですが、そうではなくて、使える知識を問う問題となっています。使えない知識は知識ではないというふうにシフトしていかないと、なかなか結果にはつながってこないと思います。

松本教育長

そのあたりは、本当にいろいろな方にそのことを言わないと理解するっていうのは、知識を覚えることを理解するという風に皆さん思いますが、そうではなくて、知識とは使えないといけません。たとえば、タブレットパソコンが自分の周りであっても、使い方を知らなければ何の意味もない。そういったところで、使うことをセットにして知識ととらえるということを、親にもしっかりと伝えていかなければならない。

影本事務局長

メディアの問題につきましては、家庭学習の時間と合わせて酒井委員が言われた通り、近年同じような課題が出ています。教育委員会の事務局としても、ここを一步進めないといけないという話をしまして、PTAもしっかりと議論の土俵に乗ってもらわないと、学校ばかりから投げかけてもなかなか難しいというところで、第2・第4水曜日はメディアチャレンジデーというような事務局からサンプルとしての取り組みを小P連・中P連にも示して、中学校区でこれからコミュニティ・スクールも始まりますので、地域・学校・保護者、みんなの取り組みとして発展的に実施してくださいというお話をしました。保護者などにそういう意識をどうやって啓発していくのかというのが課題と想着ていますので、メディアチャレンジというのをきっかけにして、時間がたくさんあるわけでもないの、子どもの学習時間などをしっかり見直してもらおうきっかけになればという形で働きかけをしています。各中学校区で進めてほしいと思います。

十河委員

全国学力学習状況調査の結果から全国より上回っているところも、境港市の子どもたち自己肯定感が高かったり、自己有用感があったり、すごく評価しているところもありますので、これらも今言われたように、小学校の子どもたちは自己肯定感がすごく高

まってきたということもありますし、私も実際、小中学校の先生の授業を見てると、この授業をもし自分が受けていたら絶対に100点とれるのになというぐらいすごく丁寧なわかりやすく子どもたちに寄り添った教育をさせていただいていると思いますので、あとは家庭への啓発だったり、危機感を持ってPTAだったり、家庭学習の大事さというのを今一度PTAを巻き込んで危機感を持って取り組んでいっていただかないといけないと感じました。

影本事務局長

境港市の子どもの自己肯定感はだんだんと上がってきています。これは私が境港市で仕事をし始めたときは、自己肯定感は低い結果がでていましたが、最近は自分に自信をもっている子どもが増えてきているという傾向が出てきています。学校での営みや家庭のサポートもあると思います。これは大事にしていかなければならないと思っています。中学生は地域行事や地域ボランティアに非常にたくさん参加しています。そういったところで地域と学校、地域の方の応援が非常にあるんだなということがわかっています。そういうところは引き続きしっかりと伸ばしていきたいと思っています。生活習慣でも、朝食を食べる子どもが増えてきましたし、基盤はだんだんと良くなっているように思えます。

中村市長

それでは次にその他事項で事務局から報告事項がありませんか。

※影本事務局長が統合準備委員会、コミュニティ・スクールの状況報告

中村市長

報告事項について質問等ありますか。（質問なし）それでは、余子小学校と誠道小学校の統合やコミュニティ・スクールについてはこの総合教育会議で今後継続して協議を深めていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。

本日はこれで終了します。ありがとうございました。